



# 豊小だより

2020.6.19



## 本年度のスクールプラン（学校経営方針）を作成しました



学校再開から3週間が経ちました。臨時休業中には、課題配付・提出等にご協力いただきありがとうございました。また、1学期が始まり、毎日の健康観察やマスク着用、ハンカチ等の持ち物にご配慮いただき、重ねてお礼申し上げます。



大休みの後の手洗い

さて、今年度は新しい学習指導要領による教育課程1年目の年です。子供たちが自ら課題を見付け、学び、考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現するために必要な、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」を育ててまいります。また、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）となるよう、



体育で八幡山ウォーキング

子供たち同士で考えを出し合い、話し合っってよりよい解答や多様な答えを見いだしたり、自分の学びを振り返って何ができるようになったか、どのように学んだことがよかったか、次は何をどのように学びたいか考える場を設けたりする授業を展開していきたいと考えています。新型コロナウイルス感染症対策の中で、これまでと同じような形式での対話的な学びは難しい部分もありますが、いろいろな方法を試しながら、子供たちの生きる力を育成していきます。



音楽の授業にて歌唱

そこで、裏面のようなスクールプラン（学校経営方針）を作成しました。本校が伝統的に目指す児童像として掲げている「考える子」「助け合う子」「たくましい子」を、上述の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」で捉え直しました。それぞれの資質・能力を育成するために「何を」「どのように学ぶか」で今年度の取組を示すとともに、取組の成果を測る評価項目も設定しました。また、取組を支えるために「子供の発達をどのように支援するか」「実施するために必要なこと」について、取組と評価項目を掲げました。



身体計測で視力検査

保護者の皆様には、年度末に評価項目についてアンケートの回答にご協力をお願いします。お子様の様子から、今後の本校の取組についてご意見等いただければと思います。そのためにも、できるだけ学校での様子をお知らせしたいと考え、本校ホームページの「みのり



っ子の学校生活」のコーナーに、日々の出来事を掲載しています。ホームページには、スクールプランや学校だより、いじめ防止基本方針も掲載していますので、こちらもぜひご覧ください。（豊小ホームページ <http://www.fukui-city.ed.jp/minori-e/>）

# 令和2年度 福井市豊小学校 スクールプラン

**福井市学校教育目標 地域に根ざす「学びの一貫性」**

「系統性のある学び」と「地域に根ざした学び」の2軸の中で、一貫性をもった学びを4ステップ（基礎期・拡大期・充実期・発展期）に応じてスパイラルに進化させることで、子供たち一人一人が未来を拓く力を身に付けることを目指す。そのため、①地域との取組の目的や子供に付けたい力と各教科等の目標とのつながりを重視するとともに、②発達段階に応じた系統性のある学びとなるようなつながりを図ることで、「授業づくり」「夢を育む生き方教育」「気になる子供の支援」を充実させていく。



子供の願い	保護者の願い	地域の願い
【こんな学校に】 ・元気で明るく笑顔いっぱい、来るのが楽しい学校 ・明るい挨拶ができる学校 ・男女仲良く、助け合い、思いやりのある学校 ・一人一人が決まりを守って生活する学校	【こんな子に】 ・人の気持ちを理解できる子に ・目標に向かって努力する子に ・自分の力で困難を乗り越えられる子に ・心身共に健康な子に	【こんな地域との連携を】 ・児童の地域行事への参加 ・地域の自然（八幡山）・文化（歴史）に親しむ活動 ・児童・保護者と共に行うリサイクル活動や風川浄化活動 ・学校行事と連携した防災訓練 ・子育て世代のネットワークによる人材育成

**教育目標 豊かな心を持ち、自己実現を図ろうと、たくましく生きる子の育成**

## 研究主題 自己変容を自覚できる学びをつなぐカリキュラムの創造

目指す児童像	何ができるようになるか (資質・能力)
考える子	協働し課題を見つめ、自ら探求する子 知 学ぶ価値を理解し、課題探究の見通しをもつことができる。 思 考えを伝え合い、整理して、自分の考えを再構成することができる。 学 自己の変容を見つめ、次の課題への意欲を高めたり、学んだことを生かそうとしたりする。
	助け合う子 知 他者と協働することの意義や認め合うこと、違いを受け入れることの必要性を理解する。 思 意思決定する、話し合う、合意形成することができる。 学 多様性を受け入れ、自分に生かしたり、よりよい人間関係を築こうとしたりする。
	たくましく生きる子 知 ルールやマナーを守るなどの意義や健康・安全に生活する方法を理解する。 思 めあてを立てて実行し、成果や課題を見いだして、解決する方法を考え、再度実行することができる。 学 より健康・安全に生活していこうと取組を継続することができる。

何を学ぶか (特色ある教育課程)	どのように学ぶか	評価項目		
		児童	保護者	教職員
幅広い読書活動	いつでも読書活動ができるような環境づくりと家庭での読書活動の推奨に努める。	学校や家でよく本(漫画・雑誌を除く)を読んでいる。	親子読書等を通して、お子様の読書への興味・関心が高まった。	読書の時間を確保し、自ら本に手を伸ばすよう指導の工夫を図った。
NIE学習	社会事象や問題に関心をもち、向き合おうとする態度を育てる。	新聞やテレビなどでほぼ毎日ニュースを見ている。	お子様は、新聞やニュースを見たり、聞いたりして社会への関心をもっている。	新聞やニュースを見たり、聞いたりして社会への関心をもつよう指導することができた。
◎自主学習	各教科等において学習課題や学習活動を選択する機会を設け、自主的、自発的な学びへの興味・関心を高める。	授業に自分からすすんで取り組んでいる。 読書や学習ノートなど、家庭で自主学習を工夫して取り組んだ。 相手の意見を聞き理由をあげながら賛成意見や反対意見を述べることができる。*	本校は、学習への興味・関心を高め、子供たちが主体的に学習を進めることができるよう指導を工夫している。	児童が主体的に課題探究し、表現する授業を計画的に実施し、自主学習の方法を身に付けさせることができた。
交流学習	児童会活動におけるたわわり活動や学級活動を通して、自己有用感を味わわせたり、思いやりの心を育てたりする。	みんなで何かをするのは楽しい。	お子様は、他者に対する思いやりの心が育っている。	たわわり活動や学級活動を通して、よりよい人間関係を築くことができるよう指導を工夫した。
◎人権学習	道徳科や学級活動における話し合い活動やエンカウンター等の活動を通して、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。	道徳の時間には考えを深めることができる。 自分はいじめを見たら、大人のの人に知らせたり、とめたりすることができる。	本校は、いじめの未然防止や早期発見・解決に努めている。	本校は、道徳の授業時間を確保し、心を見つめさせたり生き方について考えさせたりする指導を工夫している。
ネット利用や情報モラルに関する学習	家庭や外部機関と連携し、スマートルールや情報モラルについて考える機会をもつ。	みのりっ子スマートルールを守っている。	みのりっ子スマートルールについてお子様と内容や実践状況について話し合っている。	ネット利用、情報モラル等を含む学校・家庭生活におけるルールやマナーについて、教職員が共通認識のもと、継続的に指導することができた。
保健学習 体力づくり	保健指導や体育の授業等において、自己の健康・体力を管理する方法を身に付けさせる。	健康な生活を送るために、手洗いや体力づくり、早寝早起きなど、自分から進んで行った。	お子様は、健康・安全に気を付けて生活している。 本校は、不審者への対応や交通安全など安全面について適切に指導している。	児童が自ら健康・安全に気を付けることができるよう、継続的な指導を行った。

知:知識・技能  
思:思考力・判断力・表現力等  
学:学びに向かう力・人間性等

	項目	具体的取組	評価項目		
			児童	保護者	教職員
子供の発達をどのように支援するか	キャリア教育	道徳教育総合推進事業「親子で学ぶ道徳講座」を核とし、将来の夢や目標をもち、実現に向けて努力しようとする意欲や態度を育てる。	将来の夢や目指す目標をもっている。	お子様の将来の夢や目指す目標について、家族で話すことがよくある。	本校は、児童が夢や目標をもち、その実現に向けて努力するよう、キャリア教育に力を入れている。
	◎個に応じた指導	個に応じためあてが達成できるよう、一人一人の良さや成長を認め、伸ばす学習評価を実施する。	自分には、よいところがあると思う。	学校は、子供たち一人一人を大切に、温かく指導している。	本校は、一人一人の良さや成長を児童自身が自覚できるような振り返りの場を設け、発達段階や個に応じた授業づくりに、熱心に取り組んでいる。
	生徒指導	個別面談や観察を通して、全ての児童にとって通うのが楽しい学校づくりを進める。	学校が楽しい	我が子は学校生活を楽しくしており友人関係も良好である。	「居場所づくり」「絆づくり」を意識した指導を計画的に行った。
実施するために何が必要か	園小接続推進及び中学校区教育	園・小・中の連続した学びを実現できるように、カリキュラムの共通理解や丁寧な移校支援を図る。	木田小、明倫中との交流掲示板をよく見ている。	本校は、園や中学校と連携して教育活動を進めている。	本校は、中学校区として目指す子供の姿の実現に向けて取り組んでいる。
	地域貢献	「豊地区まちづくりビジョン」をカリキュラムに取り入れ、地域の学習素材・人材の活用を図り、地域に愛着と誇りをもたせる。	地域や社会をよくすることに興味をもち、何をすべきかを考えることがある。*	お子様と地域のことについて話すことがよくある。	生活科や総合的な学習の時間、特別活動等、子供たちが地域とのつながりを強めることができるよう指導を工夫することができた。
	情報発信	教育活動の情報をネット等で発信し、家庭・地域の理解を得たり、地域住民が「参画」したりできるように双方のつながりを強化する。	家の人に学校で学習したことをよく話す。	学校は、「PTA総会」「懇談会」「学校だより・学年だより」等を通して、保護者に教育方針や教育内容を適切に伝えていく。	授業参観や保護者ボランティアの活用、学年だより、HPを通して学校での取組を積極的に発信している。
	働き方改革	教職員一人一人が実効性のある業務改善策を提案・実行し、改善目標の達成を図る。	先生は授業内容を一生懸命教えてくれる。	ノー残業デー等の働き方改革が、教育活動の充実につながっていることが理解できる。	自らの働き方を見直し、勤務時間や業務内容について継続的に改善を図る取組を一つ以上行った。

\*は、高学年の評価規準

